

ライフステージの変化と男女の幸福度¹

2010年9月14日

亀坂安紀子（青山学院大学経営学部）

吉田恵子（桃山学院大学経済学部）

大竹文雄（大阪大学社会経済研究所）

要約

本稿の目的は、結婚や出産といったライフステージの変化が人々の幸福度や充実度に及ぼす影響をパネルデータ分析によって明らかにすることである。分析の結果、配偶者の存在や小さな子供の存在が個人の幸福度を高めることが明らかにされ、かつ、女性の充実度を高めることが明らかにされる。しかし、それらが男性の充実度へ与える影響については明らかではなく、充実度を高める要因に性差が存在することが明らかにされる。健康状態や、求職中であるか否か、といった人々の属性は、男性であるか女性であるかにかかわらず、幸福度や充実度に同じような影響を与えており、健康であること、求職中でないことが個人の充実度と幸福度を高めている。

JEL 分類番号 : I31

キーワード : 幸福の経済学、幸福度、ライフステージの変化

¹本稿を作成するにあたって、川口章氏、橋木俊詔氏の各氏、関西労働研究会夏合宿の出席者より有益なコメントを頂いた。記して感謝したい。本研究は、大阪大学 21 世紀 COE プロジェクト「アンケートと実験によるマクロ動学」及びグローバル COE プロジェクト「人間行動と社会経済のダイナミクス」によって実施された「くらしの好みと満足度についてのアンケート」の結果を利用している。貴重なデータを提供いただいたことに感謝したい。本稿における誤りはすべて筆者に帰する。